

目的 麻素材の衣服はここ数年、春夏の高級衣料として流行するようになり、当研究室のアンケート調査からも約8割の者が所持しており、20歳前後の若者達の間でも麻の服が好まれていることがわかる。これらの既製服には必ずといっていい程取扱いは「ドライクリーニング」の表示が成されており、消費者もこの表示にしたがって取扱っている様子が伺われる。しかし元来麻は古代から丈夫な繊維として用いられてきたにもかかわらず、正しい知識が不足しがちなために取扱方法についてもまじいけみられることも事実である。そこで、アンケート調査をもとにドライクリーニングに出しているという回答の多め、ジャケットとドライクリーニングの表示についていても家庭で洗濯していると答えたアラウスについて、洗濯方法の違いによる性能の比較検討を行った。

方法・結果 ドライクリーニングと表示してある麻100%で出来た市販の白地のジャケットとアラウスを各一枚ずつ購入し実験試料とした。ジャケットについては、2名の被験者が一枚ずつ1日8時間を3日間着用後一枚はドライクリーニング仕上げを、他の一枚は通常の方法による家庭洗濯後のリ付けアイロン仕上げを施した。この着用・洗濯を1サイクルとして19回繰り返す、1サイクルごとに表面反射率(衿、脇、後ろ身頃の各部位)及び寸法測定、顕微鏡撮影による表面特性の変化を調べた。その結果、アラウス、ジャケットいおれについても、19回着用・洗濯を繰り返した後の表面反射率の低下率はクリーニング仕上げの方が家庭洗濯仕上げよりも著しく、黒ずんでいることが肉眼でもは、ミリと観察できた。そして寸法測定については洗濯方法の違いによる差が見られた。